

大善寺

大善寺は曹洞宗の寺院であり、宇佐神宮の上級の神職であった小山田家の菩提寺として 1645 年に創建されました。禅堂には、千年にわたる神仏習合の時代に宇佐神宮の一番重要な寺院だった弥勒寺に安置されていた数体の貴重な仏像があります。明治政府が神仏分離令を 1868 年に発したため、弥勒寺は 1871 年に廃寺となりましたが、その仏像の一部は保管され、その後、そのうちの 5 つは大善寺に移されました。

禅堂の中央に安置されているのは、かつて弥勒寺の金堂（本堂）のご本尊であった薬師如来座像です。薬師如来は薬と治癒の仏で、左手に薬壺を持ち、右手は恐怖を払拭する仕草をしています。この仏像（2.8m）は鎌倉時代（1185 年～1333 年）後半に作像され、寄木造りという技術によって檜から作られており、元々は漆と金箔で仕上げられていました。鎌倉時代の、よく保存された薬師如来像の大作の珍しい例で、国指定の重要文化財となっています。

その他の弥勒寺から来た仏像 4 体は、室町時代（1336 年～1573 年）に彫られたものです。薬師如来座像の両脇にあるのは、随伴者である日光菩薩・月光菩薩（陽光と月光の菩薩）の像です。左端と右端は、憤慨した愛染明王と不動明王で、仏教の保護者であり、悪を鎮圧し、無信仰者を回心させます。保存状態はさまざまですが、この全ての仏像は、弥勒寺とかつてそこで祀られていた神聖な物品についての貴重な見識を与える重要な作品です。

大善寺のご本尊は、本堂で祀られている釈迦如来（歴史上に実在した仏陀）の像です。お寺の門の右側にある小さい観音堂というお堂には、慈悲の菩薩である観音菩薩の金箔を施した像が安置されています。

大善寺は宇佐神宮境内から徒歩約 10 分の寄藻川右岸にあります。大善寺境内は一般公開されていますが、室内への入場をご希望の場合は、事前にお寺にご連絡いただくかスタッフまでお尋ねください。お問い合わせは日本語のみ受け付けておりますので、ご了承ください。